

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善に伴う設備投資の増加や雇用・所得環境の改善による個人消費の底堅い動きもあり、景気は回復基調のうちに推移いたしました。

塗料業界におきましては、公共投資は依然低迷を続け、出荷数量・金額共に前年同期比微増にとどまる状況となりました。

一方、当社グループの主要な需要先である自動車産業におきましては、国内生産台数は前年同期を6.6%上回る水準で推移しました。

このような経営環境のもと、当社グループは顧客ニーズに合致した環境対応型製品や価格競争力のある新製品の開発に精力的に取り組み、積極的な拡販活動を展開しましたが、天候不順による需要低迷の影響で塗料関連事業の売上が減少し、当中間期の連結売上高は176億3千万円となり、前年同期比△0.7%の減収となりました。

収益につきましては、原油価格の高騰による原材料費増加の影響に対し、製品への価格転嫁、各部門での懸命な原価低減および販管費削減努力を続けましたが十分にカバー出来ず、連結営業利益は1億4千万円（前年同期比△61.3%減）、連結経常利益は5億6千5百万円（前年同期比△31.3%減）、中間純利益は3億9千6百万円（前年同期比△28.2%減）と減益となりました。

前年同期との比較については、以下のとおりであります。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	中間純利益 (百万円)
平成18年9月中間期	17,630	140	565	396
平成17年9月中間期	17,760	363	824	552
増減率（%）	△0.7	△61.3	△31.3	△28.2

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①塗料関連事業

塗料事業部門におきましては、建築用塗料は企業の設備投資増加はありましたが、引き続き需要低迷と夏場の天候不順の影響を大きく受け、全体では大幅な売上のマイナスとなりました。工業用塗料では、航空機用塗料は堅調、また建材関連の壁用塗料が大幅に拡大しましたが、防音材はエアコン市場の低迷により大きくダウンし、前年並みの売上となりました。

当部門の売上高を品種別に見ますと、合成樹脂塗料では内外装用塗料の激化する価格競争の中でシェアを落とし前年同期比23.4%の大幅減少となりました。屋根用塗料では、遮熱塗料シリーズは引き続き好調に推移しましたが、天候不順と訪販業者向け塗料の需要が大きく落ち込み前年同期比18.3%の減少となりました。床材関係は学校関係を中心に官公庁物件が大幅に減少した中で、好業績企業の設備投資の拡大による工場需要の増加が寄与し前年同期比1.4%の増加となりました。

防水材料につきましては、天候不順の影響と価格競争が激しく、メインのウレタン及びFRP防水が減少し前年同期比では3.0%の減少となりました。

その他の塗料は、航空機用塗料は新規参入航空会社を含め、民間機の塗替需要が活況で前年同期比10.5%と大きく伸びました。防音材は主力のエアコン向けが、冷夏の影響と市場での安価品へのシフトが大きく、弊社の防音材を採用いただいている高級品の販売は逆に大変な不振となり前年同期比14.2%減と大きく落ち込みました。

この結果、当部門の売上高は54億6千4百万円となり前年同期比6.2%の減収となりました。

①自動車製品関連事業

自動車製品事業部門におきましては、自動車メーカー各社の活発な新型車投入や輸出の伸びにより、乗用車の国内自動車生産台数は前年を上回る水準で推移しました。

このような状況下で、制振材につきましては、その装着量の少ない車種の生産が好調であった影響と、従来のシート状制振材に代わる水系塗布型制振材の採用拡大により、売上高は前年同期比11.7%減少しました。

吸遮音材につきましては、超軽量防音システム部品「リエタ・ウルトラライト」が引き続き自動車メーカー各社の高い評価を得て、多くの車種へ採用が拡大しています。さらに、車室内の各種防音部品やエンジンルーム内の吸遮音部品の販売が好調で、吸遮音材の売上高は前年同期比7.0%増加しました。

防錆塗料につきましては、水系塗布型制振材や環境対応型耐チップング塗料であるアクリルゾルアンダーコート等の採用拡大で、その売上高は前年同期比20.0%増加しました。

この結果、当部門の売上高は121億6千5百万円となり、前年同期比1.9%の増収となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末の現金および現金同等物（以下「資金」という）は16億9千8百万円となり、前連結会計年度末より7億2千2百万円減少しております。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは16億1千8百万円（前年同期比4億3百万円増加）となりました。主な内容としては、税金等調整前中間純利益5億2千8百万円、減価償却費10億3百万円及び仕入債務の増加7億9百万円の増加に対し、売上債権の増加による減少2億6千5百万円及び法人税等の支払額1億8千6百万円の支出によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは21億3千3百万円の支出（前年同期比1億3千9百万円減少）になりました。これは主に有形固定資産の取得による支出額20億7千3百万円、関係会社株式等の取得による支出額1億2千5百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは2億7千1百万円（前年同期比4億6千8百万円減少）の減少となりました。これは主に、短期借入金の減少2億4千2百万円、配当金の支払額1億6千2百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
塗料関連事業	3,152,506	95.8
自動車製品関連事業	8,108,955	105.7
合計	11,261,461	102.7

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高について特記すべき事項はありません。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
塗料関連事業	5,464,805	93.8
自動車製品関連事業	12,165,472	101.9
合計	17,630,278	99.3

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合。

相手先	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
㈱中外	3,264,564	18.38	3,553,135	20.15
本田技研工業㈱	2,522,709	14.20	2,536,399	14.39

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、「創意工夫」「顧客に信頼される製品の開発」を基本理念として、積極的な開発に取り組んでおります。

研究開発活動につきましては、主に当社の研究開発本部が行っております。また、当中間連結会計期間より研究開発活動の強化を目的に組織変更を行い、各事業部にあった研究開発部門を統合しております。

自動車製品関連事業においては、海外の技術提携企業ならびに当社グループ関連会社の(株)日本リエタ音響研究所と密接な連携をとり、迅速的な開発体制を整え、研究開発活動を行っております。

当中間連結会計期間に支出した当社グループ全体の研究開発費の総額は5億6千4百万円であり、中間連結売上高に対する割合は3.2%であります。

事業のセグメント別の主な研究開発活動の概要及び成果は次のとおりであります。

(1) 塗料関連事業

塗料関連開発分野では、地球環境に配慮した環境対応型塗料や遮熱技術を応用した省エネ塗料を重点テーマとし、製品開発を進めてまいりました。

建築関連では、窓ガラスなどの汚れ防止を目的とした、酸化チタン光触媒塗料「エヌティオG」を開発しました。屋根材関連では、耐久性の向上を目的とした屋根用弱溶剤シリコン塗料「リリーフNADシリコン」や、同タイプの高耐久性に加え遮熱性能を付与した「パラサーモシリコン」を開発しました。

塗り床材関連では、厚生労働省のVOC基準に適合する環境対応型厚膜エポキシ塗り床材「ユータックE-30 ECO」、プールサイドやアスファルト舗装下地に施工可能な水性遮熱塗料「ユータックシリカ遮熱」を開発しました。

防水材関連では、優れた防水性能に加え遮熱性を付与した、ウレタンゴム系遮熱防水材「プルーフロンC-100DX遮熱」を開発し、商品化しました。また、UR都市機構向けに、屋上防水（プルーフロンX-1工法）とベランダ防水（プルーフロンエコ）の登録が承認され、UR都市機構の物件に適用可能となりました。道路関連ではヒートアイランドの抑制に効果が期待できる、排水性舗装用遮熱塗料を開発し、商品化しました。

工業ユーザー向けには、卓越した耐久性を有する瓦用水性無機塗料や優れた意匠性を有するサイディングボード用水性塗料を開発し、採用となりました。

当中間連結会計期間における研究開発費の金額は、1億4千2百万円であります。

(2) 自動車製品関連事業

自動車製品開発分野では、環境、安全そして軽量化を重点テーマに、魅力ある製品開発に取り組みました。更に、自動車メーカーのグローバルな展開に合わせて、積極的な海外展開を進めました。製品開発全般では、開発期間の短縮や開発工数の削減を目的に設計初期段階から先進の数値解析技術を活用した効率的な開発を進めるとともに、原価低減活動にも注力しました。

制振材関連では、従来と同様に製品の軽量化に注力し、顧客ニーズに合わせた幅広い製品開発に取り組みました。その製品は、多数の車両に採用されております。難作業の軽減に配慮した塗料タイプの塗布型制振材は、その採用実績を着実に拡大しております。新製品としては、磁着力を付与することにより車体パネル縦面への装着性を向上させた高性能制振材並びに制振性能と補強性能を併せ持つ新製品の開発に成

功し採用されました。

吸遮音材関連では、海外合弁及び提携企業と連携し、新規軽量防音システム部品の展開に注力し、採用実績を着実に拡大しております。この大幅な軽量化と静粛性能を両立させた技術により、当社は防音部品市場におけるリーディングサプライヤーとしてお客様より高い評価をいただいております。防音性能の向上と軽量化の要求にともない、エンジン周りやタイヤ等の音源近傍に装着する防音部品や排気系周りに装着する遮熱性能と防音性能を両立させた部品も新たに採用され、その採用実績は着実に拡大しております。また、エンジンに直接装着される防音部品やフロア車体外板面に装着される吸音部品の開発にも成功し採用されました。

ハイブリッドエンジンやディーゼルエンジンなどの環境技術の普及に合わせて、エンジンルームから車体外板面に及ぶより広範囲な部位に防音性能を付与するため、現在新しい技術開発に注力しております。併せて、国内自動車メーカーとの共同開発を積極的に進め、車体構造を含めた新しい防音構造の研究を行い成果をあげております。

防錆塗料関連では、環境に配慮したアンダーボディーコーティング材やボディーシーリング材の開発に注力し、成果を上げております。

当中間連結会計期間における研究開発費の金額は、4億2千2百万円であります。